

政策2 生きる力を育む学校教育の推進

10年後の姿

各学校で誰一人取り残さない質の高い教育が実践されており、子どもたちが予測困難な時代をたくましく生きる力を、身に付けています。

共生社会の実現に向けて、すべての子どもが可能な限り共に学ぶことができるよう、一人ひとりの教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場が充実しています。

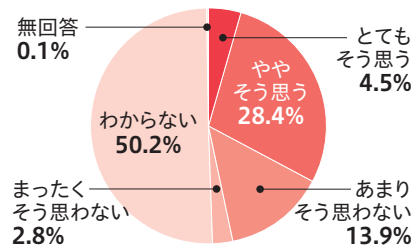
安全・安心な学校施設への更新が計画的に進み、充実した教育活動の中で、魅力ある学校が実現しています。

学校が地域から信頼され、家庭・地域との連携・協働が進み、学校・家庭・地域が一体となり、地域全体で子どもの成長を支えていく体制が確立されています。

区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
		令和13年度末
区立学校において「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけるための教育が進んでいると思う区民の割合	32.9%	50%

●「区立学校において「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を身につけるための教育が進んでいる」と思いますか。



現状と課題

学習指導要領の改訂、GIGAスクール構想*、コロナ禍における「新しい生活様式」を踏まえた教育活動の展開、少人数学級への動きなど、教育を取り巻く環境は刻々と変化しています。このような変化に適切に対応していくとともに、学習指導要領の着実な実施により学校教育を社会に開かれたものとしていくことが求められています。

区政に対する意識調査(平成30(2018)年度実施)では、学校教育を重要視する区民は多く、区においては、グローバル化や情報化の急速な進展など、価値観が多様化する社会に子どもたちが主体的に対応していけるよう、めぐろ学校教育プランに「目指す子ども像」「目指す学校像」を掲げ、知・徳・体のバランスのとれた豊かな人間性を養うための学校教育を推進しています。

特に、平成14(2002)年度から一部の区立小学校で実施している「40分授業午前5時間制」は、各学校

の実態に合わせて活用され、子どもたちの学びと成長につながるよう工夫を凝らして教育課程を編成しています。

新しい時代を生きる子どもたちの資質・能力を確実に育む学校教育を実現するためには、これまでの取組を充実・発展させていくことに加え、ICT*を活用した指導の充実、少人数によるきめ細やかな指導体制、安全・安心な教育環境の確保、教職員の養成・採用・研修等の充実など、校長を中心とした学校組織のマネジメント力強化の下、新しい学びを支える人材育成・環境づくりに取り組む必要があります。

さらに、「社会に開かれた教育課程の実現」に向けて、学校の教育目標や目指す子ども像を地域と共有しながら、将来の社会の担い手である子どもたちの健やかな成長を地域全体で支えていくための仕組みが必要です。

施策一覽

施策 1 知・徳・体を総合的に捉えた資質・能力の育成

【主な取組】

- 確かな学力の向上
- ICT*を活用した教育の充実
- 現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育の推進
- 豊かな心の育成
- 健やかな体の育成
- 就学前施設・小学校・中学校間の連携・交流の強化

施策 2 新しい時代の学校教育を支える環境整備

【主な取組】

- いじめ・不登校等の諸課題への対応の充実
- 学校のICT*環境整備の推進
- 学校図書館の充実
- 日本語指導の充実

施策 3 社会状況の変化に対応した魅力ある学校施設への更新

【主な取組】

- 老朽化した学校施設の計画的な更新
- 区立中学校の適正規模・適正配置の推進
- 学校施設の機能改善

施策 4 学校内外の連携・分担による学校マネジメントの実現

【主な取組】

- 学校を支える人材の専門性が発揮される組織運営を通じた「チーム学校」の機能強化
- 高い専門性と指導力、協働性を備えた教員人材の育成
- 学校・園における働き方改革の推進
- 学校・家庭・地域が一体となり地域全体で子どもたちの成長を支える体制の整備

施策 5 インクルーシブ教育システム*の構築

【主な取組】

- 教職員、児童・生徒、保護者・区民への理解・啓発
- 交流及び共同学習の充実
- 特別支援教室における指導・支援の充実
- 保護者や関係機関との連携による支援体制の充実

施策 6 学校安全対策の充実

【主な取組】

- 子どもの安全教育の推進
- 地域や関係機関との連携による安全対策の強化
- 学校・園における児童虐待の早期発見・早期対応の推進
- 「新しい生活様式」下における持続的な学校・園運営の実現

施策 1

知・徳・体を総合的に捉えた資質・能力の育成

施策の概要

すべての子どもが持続可能な社会の創り手となることができるよう、知・徳・体を総合的に捉えた資質・能力を育成していきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、すべての子どもたち一人ひとりにきめ細かく目を配り、個別最適な学びを提供することにより、これから先も誰一人取り残すことなく質の高い教育を届けられるよう取組の充実を図ります。また、「特別の教科 道徳」の授業等を通して、多様性の尊重や価値観の異なる他者との共生などについて、考えを深めていきます。

関連するSDGsのゴール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
各教科の学習が分かると回答した生徒の割合	91%	95%
命を大切に、思いやりの心をもっていじめをしないように生活している生徒の割合	98.9%	99%
運動をしたり、健康に気を付けたりして生活している生徒の割合	91.7%	95%

現状と課題

- Society5.0*時代の到来など、社会の変化が加速度を増し、複雑で予測困難となってきた中、一人ひとりの児童・生徒が自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることができるようになることが必要です。
- 学校教育には、知・徳・体を一体的に捉え、3つの資質・能力である「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」をバランスよく育むことが求められています。
- これらの力を児童・生徒に身に付けさせるために、区は、学校教育の基盤的なツールとしてICT*は必要不可欠なものであると捉えており、各教員がICT*機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を図り、児童・生徒一人ひとりに応じた最適な学びを提供するとともに、多様な他者と共に学び合う学習活動を充実させます。

主な取組

● 確かな学力の向上

きめ細かい指導や教科の専門性を生かした指導ができるよう指導体制を充実させるとともに、学力の定着状況の把握・分析を踏まえた指導方法の工夫・改善を図ります。

● ICT*を活用した教育の充実

児童・生徒が情報端末を日常的に活用することで、一人ひとりに確かな学力を定着させるとともに、情報活用能力の育成を図ります。

● 現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育の推進

時代の進展に伴う多様な教育課題(主権者に関する教育、消費者に関する教育、法に関する教育等)について、各教科等の内容と関連付けながら、横断的・総合的に取組の充実を図ります。

● 豊かな心の育成

人権教育や道徳教育を通じて、人権意識を高め、道徳性を養うとともに、様々な体験活動を通じて、社会性・協調性や規範意識を醸成する教育活動を推進します。

● 健やかな体の育成

児童・生徒の望ましい運動習慣・生活習慣の確立に向け、学校と家庭が連携し、体力向上の取組や食育*など健康教育の充実を図ります。

● 就学前施設・小学校・中学校間の連携・交流の強化

幼稚園・こども園、保育園等と小学校、小学校と中学校の間の連携や交流を一層深め、校種間の円滑な接続を図ります。

関連計画

● めぐろ学校教育プラン

● MEGUROスマートスクール・アクションプラン

● 健康めぐろ21

施策 2 新しい時代の学校教育を支える環境整備

施策の概要

災害や感染症の発生時等の非常時にあってもすべての子どもたちの学びを保障するため、新しい時代の学びを支える学習環境の整備が重要です。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、いじめや不登校等の諸課題や日本語指導等の教育的ニーズに、個別に対応したり、学習環境を整備したりすることにより、すべての子どもが誰一人取り残されることなく、質の高い教育を受けられるようにします。

関連するSDGsのゴール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
いじめ解消率	73% (令和2年度)	100%
区立小中学校の「学校情報化認定」優良校認定率	—	100%
日本語指導を利用する児童・生徒の目標達成率	43%	50%

現状と課題

- Society5.0*時代の到来や新型コロナウイルス感染症拡大など、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化している中、これからの学校教育を支えるツールとしてICT*は必要不可欠です。区は、災害や感染症の発生等の非常時においても、子どもたちの健やかな学びを保障するため、令和2(2020)年度末までに児童・生徒1人1台の学習用情報端末を貸与していますが、引き続き、ICT*の環境整備、学習環境・指導体制の充実などに取り組む必要があります。
- また、昨今の深刻な児童虐待をはじめ、いじめ・体罰、不登校等の諸課題は社会全体で取り組むべき重要な課題であり、目黒区においても、学校や保護者、地域、関係機関等との連携・協力の下に、学校現場においても適切に対応する必要があります。

主な取組

●いじめ・不登校等の諸課題への対応の充実

スクールカウンセラー*、スクールソーシャルワーカー*、警察関係者等の専門家や、学習支援教室「めぐろエミール」、関係機関、住区住民会議・町会などの地域コミュニティと連携を図りながら、いじめ・不登校等の諸課題の早期発見と対応を促進します。

●学校のICT*環境整備の推進

計画的かつ効果的に学校のICT*環境の改善及び維持・管理に取り組むとともに、児童・生徒及び教職員が安全・安心に学校でICT*を活用するために情報セキュリティ*の向上を図ります。

●学校図書館の充実

読書活動や読書指導の場である「読書センター」、授業の内容を豊かにして理解を深めていく「学習センター」、児童・生徒の情報活用能力等を育成する「情報センター」としての学校図書館の充実を図ります。

●日本語指導の充実

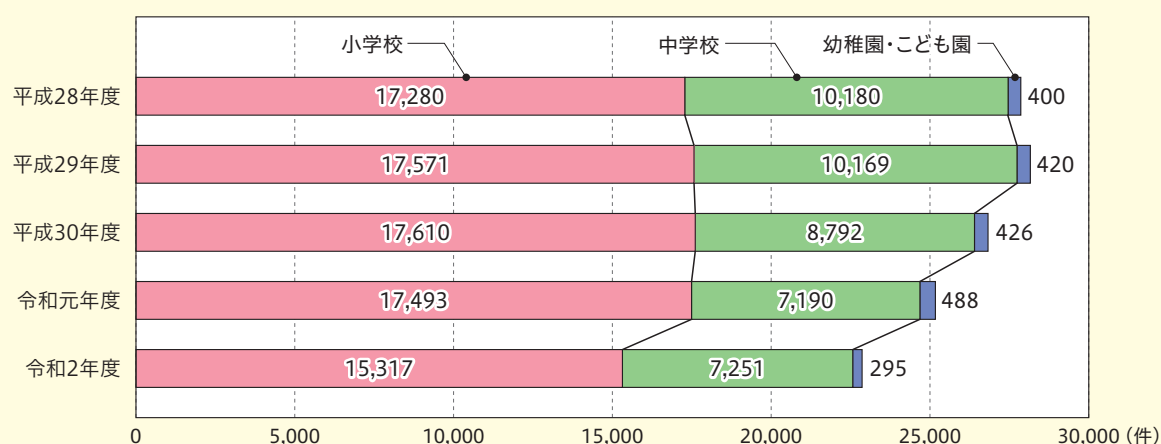
外国にルーツのある*児童・生徒が、学校生活や日本語による学習に取り組むことができるよう、日本語指導の体制整備・充実を図ります。

関連計画

●めぐろ学校教育プラン

●MEGUROスマートスクール・アクションプラン

スクールカウンセラー*の年間累計相談件数(件)



施策 3 社会状況の変化に対応した魅力ある学校施設への更新

施策の概要

児童・生徒が快適かつ安全・安心に学校生活を送ることができるよう、老朽化した学校施設を計画的に更新するとともに、既存施設についても利便性の向上や時代の変化への対応のための機能改善を進めていきます。また、中学校での活力ある学習活動や部活動の展開、集団活動を通じた人間関係の広がりを図るため、区立中学校の統合により適正規模・適正配置を推進していきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、児童・生徒が質の高い教育を受けるための、社会状況の変化に対応した魅力ある学校環境を整備し、区民が子育てしやすく住み続けたいと思えるまちづくりに貢献していきます。

関連するSDGsのゴール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
学校施設の老朽化率	84%	62%
南部・西部地区統合対象校の適正規模・適正配置の実現割合	—	100%
学校トイレの洋式化率	79.2%	95%

現状と課題

- 公共施設の老朽化は全国的な課題となっており、区は、今後一斉に迎えることとなる区有施設の更新への対応など、持続可能なサービスの提供に向けて、区有施設見直しの検討を進めています。中でも、区有施設全体の40%以上を占める学校施設については、区立小・中学校31校のうち、今後10年間で26校(84%)が築後60年目を迎えるなど、老朽化対策が喫緊の課題となっており、学校施設の計画的な更新が不可欠な状況です。既存の学校施設については、更新時期を踏まえつつ、トイレの乾式化・洋式化等の衛生環境の整備のほか、老朽化対策やバリアフリー*化等の機能改善に取り組む必要があります。
- また、区立中学校は、少子化や国私立中学校への進学志向などの影響により小規模化が続いています。このことにより、活力ある学習活動や部活動の展開に制約を生み、学習集団が固定化し、集団活動を通じた人間関係の広がりが十分とはいえなくなるなど、教育活動において様々な課題が生じる可能性があり、適正規模・適正配置の推進を図る必要があります。

主な取組

●老朽化した学校施設の計画的な更新

老朽化した26校のうち、区立中学校の統合を踏まえ、24校について、計画的・効率的に更新していきます。更新の際には、周辺公共施設との複合化・多機能化を図り、区有施設全体の総量縮減にも留意していきます。

●区立中学校の適正規模・適正配置の推進

区立中学校の更なる魅力づくりに向けて、区立中学校の適正規模・適正配置を推進し、充実した学校教育環境を整備します。南部・西部地区の区立中学校のうち、望ましい学校規模を満たす状況にない第七、第八、第九、第十一中学校の4校を2校に統合することで、適正規模・適正配置の実現を図ります。

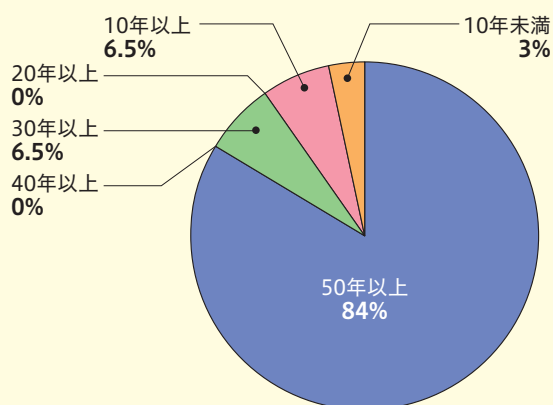
●学校施設の機能改善

児童・生徒が快適かつ安全・安心に学校生活を送れるよう、少人数学級やICT*活用などを踏まえた教室等の改修、トイレの環境改善、老朽化対策、バリアフリー*化等を進めていきます。

関連計画

- めぐろ学校教育プラン
- 目黒区学校施設更新計画
- 望ましい規模の区立中学校の実現を目指して
- 目黒区区有施設見直し方針
- 目黒区区有施設見直し計画

学校の築年数の割合(建築年度が最も古い棟)



〈資料〉目黒区学校施設更新計画より作成



東山小学校南東側外観図(平成30(2018)年完成)

施策 4

学校内外の連携・分担による学校マネジメントの実現

施策の概要

児童・生徒一人ひとりにきめ細かく目を配り、最適な学びを提供することにより、誰一人取り残すことなく質の高い教育を届けられるよう、「チーム学校」に加え、地域人材や社会資源と連携・協働する学校運営体制を構築していきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子どもたちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校づくりに取り組んでいきます。

また、学校を中心に町会・自治会、住区住民会議などの地域コミュニティが一体となって児童・生徒を支援し、子どもの健全な成長と効果的な学力の向上を支える環境づくりに取り組んでいきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいると思う教員の回答割合	85%	90%
日常的に教員の専門性及び協働性及び教育公務員としての自覚を高める取組をしている教員の割合	95.4%	98%
学校と地域の連携は円滑に行えていると思う保護者・地域の方の肯定的回答割合	76.8%	90%

現状と課題

- 新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに育むためには、学校で育むべき資質・能力を社会と共有し、連携と協働によりその実現を図っていくという「社会に開かれた教育課程」を実現することが必要とされています。一方で、学校や児童・生徒を取り巻く課題は複雑化かつ多様化しており、求められる役割が拡大したことによる多忙から教職員が教科指導や生徒指導に割く時間を十分に確保しづらいという課題が顕在化しています。
- これらの課題に対処していくには、引き続き、学校における働き方改革を推進するとともに、校長のリーダーシップの下、外部人材や地域人材を有効に活用し、適切な役割分担と教員一人ひとりの資質・能力の向上により、教職員それぞれが専門性を発揮できるような組織運営を通じて、学校組織全体としての総合力を発揮していくことが求められています。
- また、学校外との関係では、学校と家庭、地域との連携・協働によって、地域全体で子どもの成長を支えていく体制を構築し、「社会とつながる協働的な学び」と、学校や教員が教育活動に重点を置いて取り組むことのできる環境を実現していくことが強く求められています。

主な取組

● 学校を支える人材の専門性が発揮される組織運営を通じた「チーム学校」の機能強化

学校に求められる多様な機能に応じて教員以外の外部人材を有効に活用するとともに、多様な専門スタッフの役割分担の整理を行い、効果的な活用の仕方や校務分掌(学校運営上必要な業務分掌)等を実現することで、学校の教育機能のより一層の強化を図ります。

● 高い専門性と指導力、協働性を備えた教員人材の育成

教員の職層や経験に応じた研修や専門性を高める研修を意図的・計画的に実施するとともに、日常的に学び合う校内研修や、自ら主体的に行う研修を通じて、教員としての資質・能力の向上を図ります。

● 学校・園における働き方改革の推進

学校・園を支える人員体制の整備をはじめとした、学校・園における働き方改革に積極的に取り組んでいくことで、教職員の負担軽減と子どもと向き合う時間の創出を図っていきます。

● 学校・家庭・地域が一体となり地域全体で子どもたちの成長を支える体制の整備

学校運営協議会*の設置などを通じて、保護者や地域住民等が学校運営に参画し、相互に連携・協働して魅力ある学校づくりを進めていく体制を整備します。また、関係機関との連携により、複雑・多様化した課題に適切に対応していきます。

関連計画

- めぐろ学校教育プラン
- MEGUROスマートスクール・アクションプラン
- 目黒区立学校(園)における働き方改革実行プログラム
- 目黒区教員人材育成基本方針

施策 5 インクルーシブ教育システム*の構築

施策の概要

目黒区は、目黒区特別支援教育*推進計画に基づき、すべての子どもが可能な限り共に学ぶことに配慮しつつ、自立と社会参加に向けて一人ひとりの教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場を充実していくインクルーシブ教育システム*の構築を基本的な考え方として、指導・支援の充実を図っていきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、障害の有無にかかわらず共に教育を受ける機会を設けるとともに、障害のある子どもが小・中学校における多様な学びの場で一人ひとりの十分な学びを確保できるよう取組を推進していきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
交流及び共同学習(授業交流)の実施の割合	62.5%	100%
特別支援教室入級時の目標を達成した児童・生徒の割合	3%	10%

現状と課題

- 近年は特別支援学校だけではなく幼稚園や小学校、中学校の通常の学級においても発達障害を含めた障害のある子どもが学んでおり、特別支援教育*の対象となる子どもは増加傾向にあります。
- 区は、特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習、通常の学級に在籍する発達障害等の子どもに特別の指導を行う特別支援教室、特別支援教育*支援員の配置、早期からの教育相談を踏まえた就学相談や小学校就学前ガイダンスの実施などにより、特別支援教育*を進めてきました。
- すべての子どもが可能な限り共に学ぶことに配慮しつつ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた連続性のある多様な学びの場を充実していくインクルーシブ教育システム*の構築を基本的な考え方として、特別支援教育*を更に充実できるように体制の整備を進めていきます。

主な取組

● 教職員、児童・生徒、保護者・区民への理解・啓発

教職員への人権教育研修等の実施、児童・生徒への人権教育・特別活動の充実、保護者や区民への講演会の実施や区報等により、特別支援教育*の理解・啓発に取り組みます。

● 交流及び共同学習の充実

特別支援学級と通常の学級との交流及び共同学習、特別支援学級間での交流事業等を充実させ、交流及び共同学習のための支援を学校現場に行うことにより、実施体制の整備を図ります。

● 特別支援教室における指導・支援の充実

学識経験者や指導主事による授業観察や指導助言の活用、特別支援教室にかかわる教職員への研修の実施等により、特別支援教室における指導・支援の充実を図ります。

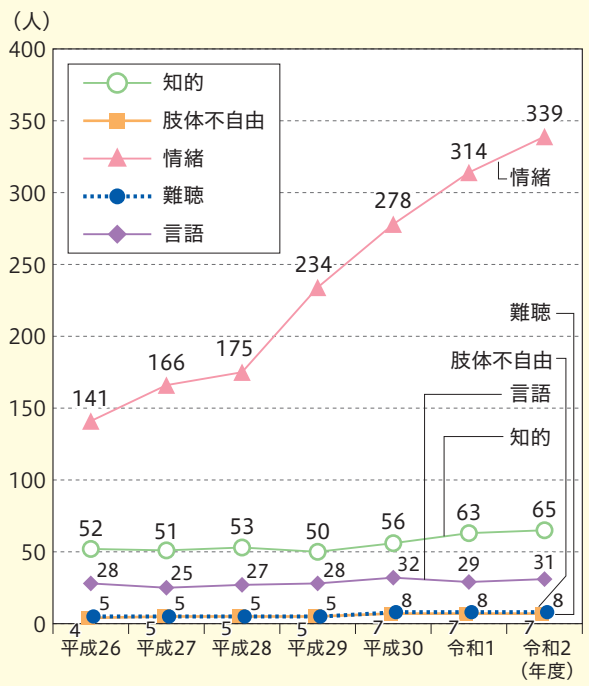
● 保護者や関係機関との連携による支援体制の充実

子ども一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を充実させるため、保護者や幼稚園・こども園、保育所等との早期からの連携を一層進め、小学校就学後についても必要な支援体制を構築します。

関連計画

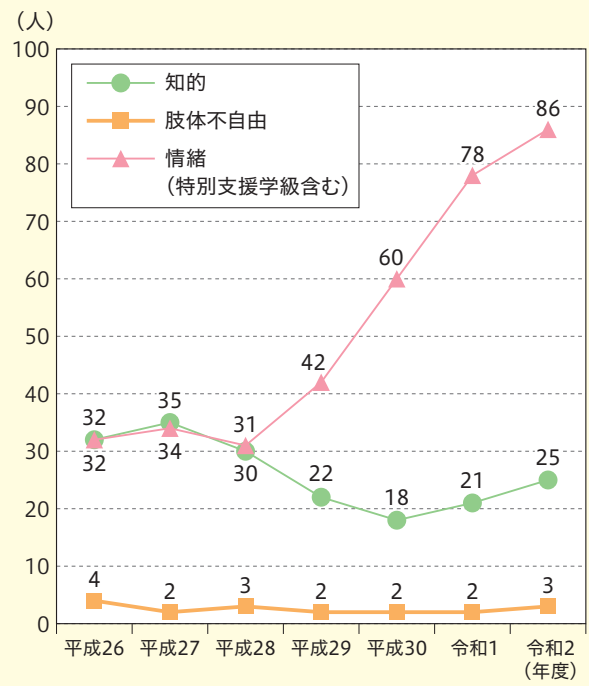
- めぐる学校教育プラン
- 目黒区特別支援教育*推進計画

特別支援学級及び特別支援教室(情緒)の児童数の推移



〈資料〉目黒区の教育(年度事業報告書)より作成

特別支援学級及び特別支援教室(情緒)の生徒数の推移



〈資料〉目黒区の教育(年度事業報告書)より作成

施策 6 学校安全対策の充実

施策の概要

学校や地域、関係機関と連携し、地域ぐるみで子どもの安全対策の充実を図ります。子どもへの安全教育では、危険に対して自ら危機を生き抜くことができるよう、成長段階に応じて様々な取組を進めていきます。また、子どもの学びを止めないため、新たなリスク対策や児童虐待防止策などを講じていきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、すべての子ども一人ひとりに質の高い教育を届けられるよう取組を進めます。安全教育では、予測不能な時代を生き抜くために必要な力を育成していきます。



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
災害時に自分の安全を守るため、適切な行動をとることができると思う生徒の割合	95.6%	96%
事件や事故防止のための活動や訓練に真剣に取り組んでいる生徒の割合	96.6%	97%
保護者や地域と連携した通学路の点検実施校数	8校	10校

現状と課題

- 学校管理下や登下校中に児童・生徒等が被害に遭う事件や事故災害の発生が後を絶たない状況にあり、学校・園において、児童・生徒等が生き生きと活動し学べるよう、災害安全・交通安全・生活安全という3つの観点から、安全・安心な「学びの場」を確保するとともに、自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を、学校教育全体を通じて育成していくことが必要です。
- こうした課題に対応していくために、地域や関係機関との連携による安全対策の強化や安全教育のより一層の充実を図っていくことが求められています。加えて、コロナ禍における「新しい生活様式」への確実な移行とともに、持続的な学校・園運営を実現していくことも、学校マネジメントの観点から重要な課題となっています。
- 児童虐待相談件数は年々増加しており、児童虐待の未然防止と早期発見・対応を行う上では、子どもと日常的に接することとなる学校・園の役割が重要となっています。教職員の資質・能力の向上や、学校・園での組織的対応とともに、関係機関との連携強化を図っていくことが強く求められています。

主な取組

●子どもの安全教育の推進

自らの安全を確保することのできる基礎的な資質・能力を、学校教育全体を通じて育成していけるよう、子どもの防災教育や防犯教育のより一層の推進を図ります。このほか、警察等と連携した薬物乱用防止教室やセーフティ教室等の実施を通して、児童・生徒の健全育成の活性化及び充実を図ります。

●地域や関係機関との連携による安全対策の強化

登下校時の事故や犯罪から子どもたちを守るため、学校が地域や関係機関と連携し、交通安全・生活安全の観点をもって危険を予知し、必要な対応策を講じます。また、安全パトロールや「こども110番の家」など従来の取組を含め、地域ぐるみでの子どもの安全対策のより一層の充実を図ります。

●学校・園における児童虐待の早期発見・早期対応の推進

これまで以上に、学校・園が子ども家庭支援センターや児童相談所等の関係諸機関と連携できるよう、教職員の児童虐待の未然防止と早期発見・早期対応に向けた研修の充実を図ります。

●「新しい生活様式」下における持続的な学校・園運営の実現

幼児・児童・生徒の学びを止めず、各学校・園が教育課程を実施していくために、「新しい生活様式」下での適切な感染症対策や熱中症対策を講じます。

関連計画

- めぐろ学校教育プラン
- 目黒区地域防災計画
- 目黒区国土強靱化地域計画

政策3 豊かな地域社会をつくる生涯学習の充実

10年後の姿

区民一人ひとりが、生涯を通じて、いつでもどこでも、学習に関する情報を手にし、生き生きと学び、学び合い、また、学んだことを地域の中で生かすことができます。

区内及び近隣地域の教育機関との連携により、教育機関の専門性を生かした生涯学習事業が活発に実施されています。

保護者が子どもの教育に責任をもって安心して家庭教育を進めています。また、学校・家庭・地域の連携により、地域全体で子育てが行われています。

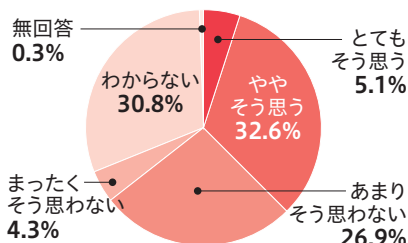
図書館では、常に新しい情報が収集されています。収集されたこれらの情報は適切に整理・保存されています。区民は必要なときにいつでも情報を得ることができます。また、区民は、図書館を利用することにより、適切な情報を得て活用するだけでなく、生涯学習を深めることや、読書の楽しみを味わうことができます。

新しく収蔵した文化財の展示や、文化財を活用した関連講座などを通じて区民が本区の文化財について学び、その価値に対する理解を深めることにより、郷土に対する愛着をもつことができます。

区政評価指標

区政評価指標	現状値	計画目標値
		令和13年度末
生涯を通じて、誰もが生き生きと学び、学んだことを活かせる環境が整っていると思う区民の割合	37.7%	60%

●「生涯を通じて、誰もが生き生きと学び、学んだことを活かせる環境が整っている」と思いますか。



現状と課題

医療体制の充実、医学の進歩、生活水準の向上等により、平均寿命は著しく伸長し、人生100年時代の到来が予測されています。人生100年時代においては、すべての人が自らの人生を設計し、学び続け、学んだことを生かして活躍できる環境が求められます。そして、今後、より豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや、地域や社会の課題解決のための活動につなげていく必要性が一層高まることが考えられます。

目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)によると、「生涯学習活動を行った」区民は17.6%、「学習の

成果を生かした地域活動を行っている区民」は4.9%、「図書館を利用した区民」は37.8%となっており、区民の生涯学習活動の充実に向けて、更なる取組が求められているところです。

区民一人ひとりが、生涯を通じて、いつでもどこでも、生き生きと学び、学び合い、また、学んだことを地域の中で生かすことができるよう、区は多様な情報の収集・整理・保存及び学習機会の提供などの生涯学習環境整備を進め、施策を推進していく必要があります。

施策一覽

施策 1 生涯学習充実にに向けた基盤整備

【主な取組】

- 生涯学習推進の基盤整備
- 「地域に学び、地域に生かす」仕組みの整備

施策 2 多様な主体の連携・協力による幅広い学習機会の提供

【主な取組】

- 多様な主体者との連携・協力による学習機会の提供
- 専門知識を生かした学習機会の提供

施策 3 家庭・地域の教育力の向上

【主な取組】

- 家庭教育講座の実施
- 子ども教室の拡充
- 学校・家庭・地域の連携を図る教育ネットワーク組織への支援

施策 4 社会教育活動の促進

【主な取組】

- 学習の場の提供
- 自主活動の支援
- 学習機会の提供
- 学びの情報の提供

施策 5 図書館サービスの充実

【主な取組】

- 図書資料の充実と的確な資料提供
- 児童サービスの充実
- 図書館情報発信の充実
- 障害者サービスの充実

施策 6 文化財の保護・活用

【主な取組】

- 文化財の保存の推進
- 文化財の公開・普及の推進
- 関連資料及び情報の提供

施策 1 生涯学習充実にに向けた基盤整備

施策の概要

人生100年時代を迎え、区民がライフステージ*やライフスタイルに応じた生涯学習を進められるよう、基盤整備を進め、区民の主体的な学習活動の支援を行います。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、すべての区民が生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、区民の主体的な学習活動に向けた条件整備を進めるとともに、生涯学習活動で培った知識・経験を地域で生かせる場の提供や仕組みづくりを進めていきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
生涯学習活動を行ったと答えた区民の割合	17.6% (令和2年度)	30%
地域の活動等を行っていると答えた区民の割合	4.9% (令和2年度)	10%

現状と課題

- 人生100年時代の到来や、Society5.0*の実現に向けた取組が進むなど社会が大きく変化する中で、個人のライフスタイルに応じて仕事や家庭、社会貢献など様々な活動を自ら選択し、組み合わせることで、多様なキャリアが実現されます。こうした活動を円滑に行い、人生をより豊かにする上で生涯学習は重要な役割を果たすといわれています。
- また、学習を学習のみで終わらせるのではなく、その成果を地域の活動の中で生かすことは、誰かの役に立つという喜びをもたらす、より積極的に地域の活動に参画する熱意や更なる課題解決のために新たな学習を求めるといった、持続的な学習と活動の循環につながり、一人ひとりの人生をより充実させていく上で、大きな意義をもつと考えられます。
- 今後、生涯学習は社会に対してより開かれたものとして、また、区民相互のつながりを提供する場として、展開していくことが求められています。

主な取組

●生涯学習推進の基盤整備

人生100年時代を見据え、すべての区民が生涯を通じて自らの人生を設計し活躍することができるよう、ライフステージ*やライフスタイルに応じた学習への支援を行い、区民の主体的な学習活動に向けた条件整備を進めます。

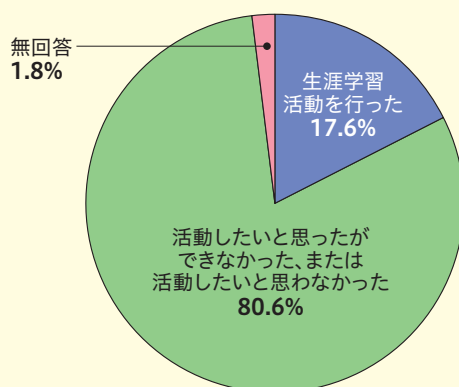
●「地域に学び、地域に生かす」仕組みの整備

地域で活動しようと思う区民を増やし、支援を行うとともに、地域で活動している区民がより充実した活動を行えるよう、生涯学習活動で培った知識・経験を地域で生かせる場の提供や仕組みづくりを進めます。

関連計画

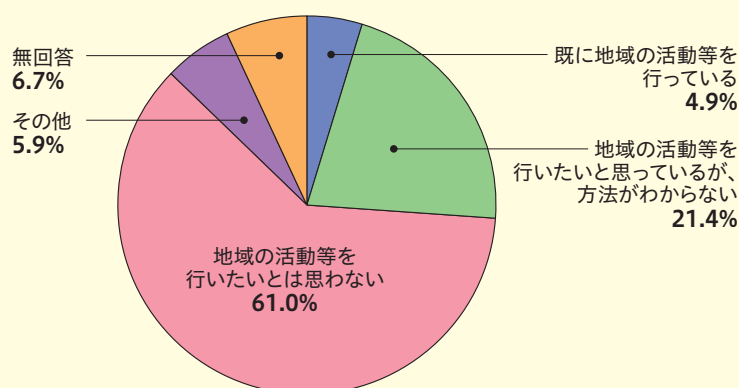
●目黒区生涯学習実施推進計画

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間に、生涯学習活動を行ったか(単一回答・回答数=1506)



〈資料〉第46回目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)より作成

新型コロナウイルス感染拡大前の1年間の知識や経験を生かした地域の活動等(単一回答・回答数=1506)



〈資料〉第46回目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)より作成

施策 2 多様な主体の連携・協力による幅広い学習機会の提供

施策の概要

目黒区内及び近隣地域の教育機関等との連携により、教育機関の専門性を生かした生涯学習事業を実施していきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、高度化・多様化する区民ニーズに応えるため、区内及び近隣の教育機関等との連携を図りながら講座などを実施し、身近な場所で専門性を生かした学習機会を提供します。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
区内等教育機関や民間団体等との連携・協力による学習機会への参加者数	240人 (令和元年度)	380人
専門知識を生かした学習機会への参加者数	310人	400人

現状と課題

- 区民生活を取り巻く環境は変化し、ライフスタイルの多様化やICT*の進展等により、区民の学習ニーズの多様化・高度化が進んでいます。
- このような状況の中、ライフステージ*やライフスタイルなどに応じて学習内容を選択できるよう、行政のみではなく、教育機関・企業・NPO*法人等との連携・協力による幅広い学習機会の提供が求められています。
- 目黒区には東京大学、東京工業大学、東京音楽大学、東京医療保健大学、東邦大学(医療センター大橋病院)など様々な分野の教育機関等があります。これらの機関と連携・協力し、特色のある教育資源の活用や専門性を生かした学習機会を提供することが求められています。

主な取組

●多様な主体者との連携・協力による学習機会の提供

区民の多様化・高度化する学習ニーズに応えるため、目黒区内の大学をはじめとする教育機関や民間団体等との連携・協力を進め、専門性を生かした幅広い分野の学習機会を提供します。

●専門知識を生かした学習機会の提供

東京都立大学の移転に伴い設立された「めぐろシティカレッジ振興会」との連携・協力により、大学教授や講師、高等学校教諭などによる、専門性を生かした学習機会を提供します。

関連計画

●目黒区生涯学習実施推進計画



区内等教育機関との連携講座



めぐろシティカレッジ講座

施策 3 家庭・地域の教育力の向上

施策の概要

家庭教育についての学習を支援するとともに、家庭、学校、地域の連携を図る教育ネットワーク組織の支援を行っていきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、家庭教育についての学習機会を提供するとともに、家庭教育支援と地域教育ネットワーク組織の支援により、家庭と地域が連携し、地域社会の中で子どもを育てていくという連帯感のもと、地域全体で子育てを行う仕組みづくりを進めるほか、子どもの安全・安心な居場所の確保や子どもが様々な体験を行うことができる機会を提供します。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
家庭教育講座実施校の割合	83.9% (令和元年度)	90%
(再掲)子ども教室実施団体数	16団体	22団体

現状と課題

- 都市化の進行、家族形態の変容、価値観やライフスタイルの多様化等を背景とした地域社会等のつながりや支え合いの希薄化によって、「地域で育てる子ども」という考え方が次第に失われてきたといわれています。
- また、家庭においては、日常生活におけるしつけ、感性や道徳心を育てることなど、本来家庭教育の役割であると考えられるものを家庭外へ依存する家庭があることが指摘されています。加えて、個人重視の風潮等人々の価値観の大きな変化に伴い、保護者の家庭教育に関する考え方にも変化が生じ、放任や過保護・過干渉が見られることなどが指摘されています。
- このような状況の中、家庭教育の自主性を尊重しつつ、家庭教育に関する学習機会や社会全体で子どもを見守り、育てていくために、学校や地域、家庭がそれぞれの役割と責任を自覚しつつ、地域全体で子育てや教育に取り組む体制を確立することが重要となっています。

主な取組

●家庭教育講座の実施

家庭教育の自主性を尊重しつつ、保護者が子どもの教育に責任をもって家庭教育を進め、子どもの生活習慣の習得や自立心を育むことができるよう、家庭教育についての学習機会を提供します。

●学校・家庭・地域の連携を図る教育ネットワーク組織への支援

子どもたちの健全で調和のとれた成長を目指して、地域ぐるみで子育てを担っていくため、学校・家庭・地域の関係者が子どもの教育について、共に話し合い連携・協力する組織の活動を支援します。

●子ども教室の拡充

放課後や学校休業日に学校施設等において、子どもの安全・安心な居場所を確保するとともに、子どもが地域との交流、文化活動、スポーツ活動等の体験ができる機会を提供します。

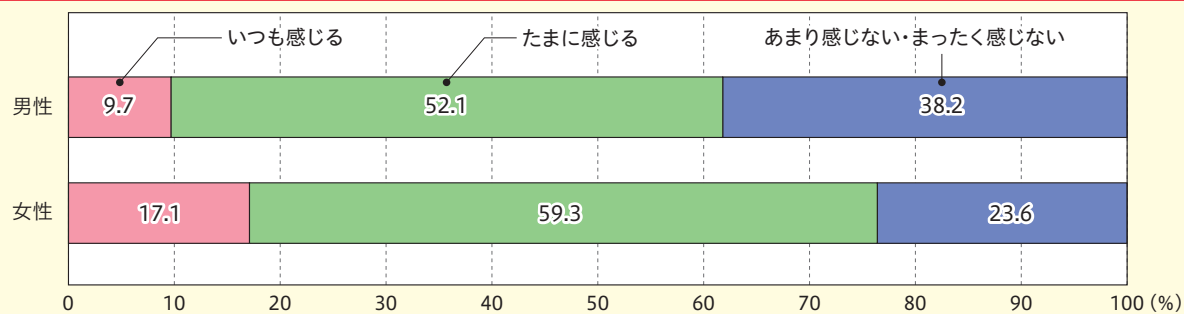
関連計画

●目黒区生涯学習実施推進計画

●めぐろ学校教育プラン

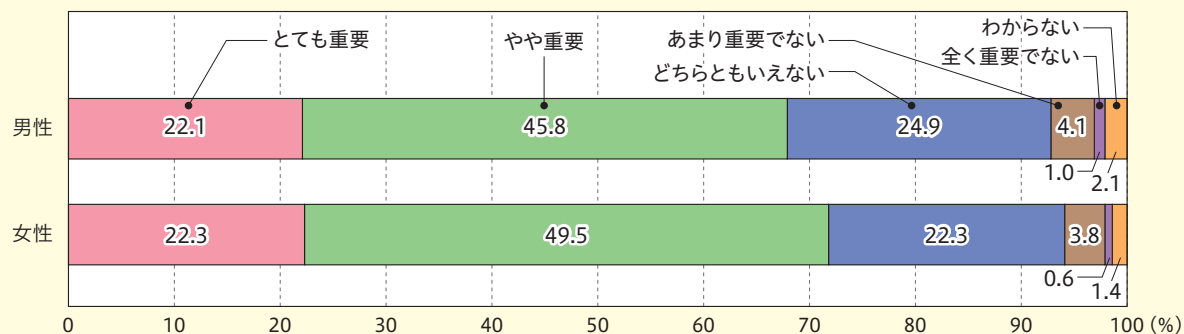
●目黒区子ども総合計画

子育てについての悩みや不安の程度(単一回答)



〈資料〉家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査(令和2(2020)年度文部科学省委託調査)より作成

子育てに対する地域の支えの重要さ(単一回答)



〈資料〉家庭教育の総合的推進に関する調査研究～家庭教育支援の充実に向けた保護者の意識に関する実態把握調査(令和2(2020)年度文部科学省委託調査)より作成

施策 4 社会教育活動の促進

施策の概要

地域の多様な人々が相互に理解し合い、共生できる環境をつくっていくために、区民が主体的に学習活動を行っていただけるよう、環境整備を進めます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、区民の学習活動が積極的に行われるよう、区民や団体の学習成果を活用した学習機会の提供を行うほか、団体活動が発展するよう、交流や発表の機会を充実します。また、団体活動の場や学習機器の提供、自主活動の支援、学習情報の提供等、学習環境の整備を行っていきます。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
社会教育館・文化会館・青少年プラザ利用率	60.8% (令和元年度)	65%

現状と課題

- 誰もが排除されずに参画できる社会の実現が求められている中、地域の多様な人々が相互に理解し合い共生できる環境をつくっていく上で、社会教育は極めて重要な役割を果たすことが期待されています。
- また、人生100年時代に多様な活動(仕事、家庭、社会貢献など)を円滑に行っていくためには、必要な時に必要な学びを通じて成長し、心身の健康を保持しながら活動できることが求められています。さらにSociety5.0*に向け、新しい技術を活用した学びの利点を最大限に生かし、様々な取組を充実・発展させていくとともに、ICT*機器を利用できる人とできない人の格差の解消を図っていくことが必要となっています。
- 区は、社会教育講座の実施や学習の場の提供などにより、区民の主体的な学習活動を支援しています。目黒区世論調査(令和2(2020)年度実施)によると、生涯学習の推進のために必要なこととして、「気軽に参加できる講座や関心のある講座があること(62.2%)」が最も多い回答となっています。今後も区民ニーズの把握に努め、幅広い講座を実施していくことが求められています。

主な取組

● 学習の場の提供

各地域の社会教育活動の拠点となるよう、学習施設の充実と効果的・効率的な運用を図り、区民や団体が学習活動を行う場を提供するとともに、学習活動に必要な機材・機器を提供します。

● 学習機会の提供

区民の自己実現や課題解決のための学習機会を提供します。「オンラインによる学び」と「対面による学び」を組み合わせ、時間的・空間的な制約を超えた学びなど、更に豊かな学習の機会を提供します。

● 自主活動の支援

各学習団体の学習活動の維持・継続のため、学習団体からの希望に応じた指導者の派遣や活動機材の貸し出し、団体同士のネットワークづくり、新たな団体設立等団体活動に関する相談などにより、自主的な学習活動を支援します。

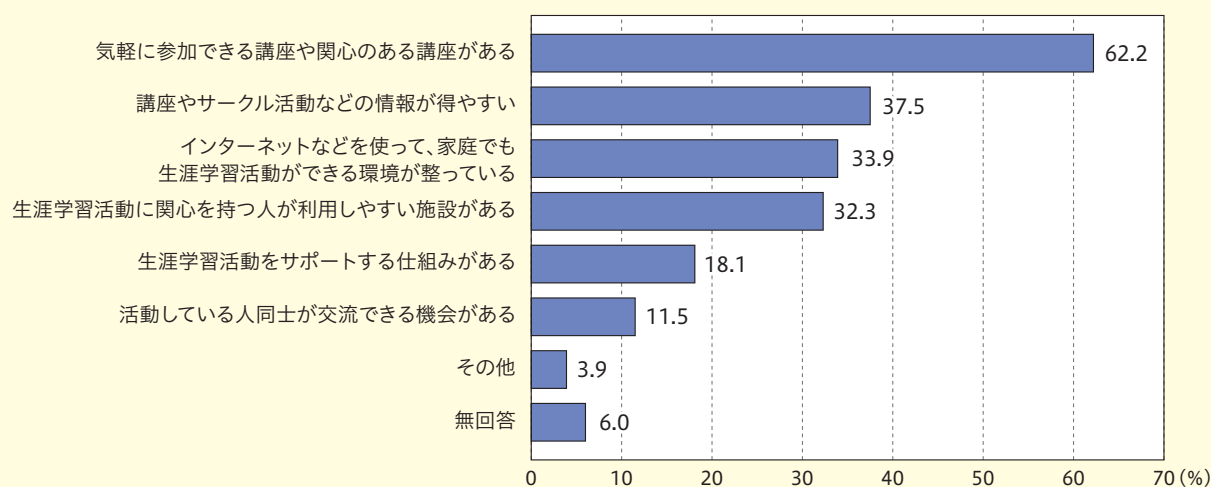
● 学びの情報の提供

区民が生涯学習活動を始めたいとき、学習活動の内容をステップアップさせたいときに、区民が好きなきに好きな手段で、手軽に学習情報を得られるように、電子媒体や紙媒体を利用して適切な情報の発信・提供を行います。

関連計画

● 目黒区生涯学習実施推進計画

生涯学習の推進のために、必要だと思うこと（複数回答：3つまで・回答数＝1506）



〈資料〉第46回目黒区世論調査（令和2（2020）年度実施）より作成

施策 5 図書館サービスの充実

施策の概要

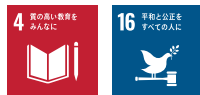
区民が必要とする情報の収集・整理・保存がされ、図書館利用により情報の活用や学習、読書活動の推進が図られるよう取り組んでいきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、図書館資料やサービスを充実させ、様々な年齢、文化的背景、ライフステージ*をもつ多様な利用者に対し、必要とする情報を提供します。

また、利用者が自らの課題や目的に応じて多様な情報を適切に活用する力を身につけられるよう支援を行います。

これらの取組により、生涯にわたり学ぶための機会が確保されるよう、必要な環境整備を行い、すべての人に包摂的かつ公平な質の高い教育を確保し、生涯学習を促進します。

関連するSDGsのゴール



成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
生涯学習活動における図書館(電子図書館含む)の利用率	21.9%	40%
年間貸出数(電子図書館含む)	3,146,014点	4,000,000点

現状と課題

- 図書館は、様々な年齢層や文化的背景などをもつ利用者が気軽に使うことのできる施設であり、娯楽として読書を楽しむこと、地域の身近な情報など日々の暮らしに有用な情報を得ること、学習することなど、一人ひとりの目的に合わせた多様な利用に対応することが求められています。
- 区は、平成29(2017)年に目黒区立図書館基本方針を策定し、多様な図書館の利用形態への対応や地域の課題解決のために、より幅広く情報を収集・保存・適切に整理した上で提供できるよう蔵書の充実を図っています。
- 利用者の年齢やライフステージ*、文化的背景等に応じて必要とされる情報は異なっており、図書館には情報源としての資料収集だけではなく、的確な情報提供を行うためのサービスを充実させることが求められています。

主な取組

● 図書資料の充実と的確な資料提供

地域社会及び生涯学習環境整備に必要とされる分野において重点的に収集するテーマを設定し、長期にわたる計画的な資料購入を行うことにより、蔵書構成の整備を図ります。

また、令和3(2021)年度より開始した非来館サービスの電子書籍貸出についても、電子資料の充実を進め、利用者の増加を図ります。

● 図書館情報発信の充実

区民・利用者が必要とする情報を早くと確に提供するため、また、豊かな読書環境を構築するため、図書資料や図書館関連の情報収集及び整備を強化するとともに、よりわかりやすい情報提供の手段を検討し、情報発信の充実を図ります。

● 児童サービスの充実

次代を担う子どもたちに対し、それぞれの発達段階に応じて必要とする情報を提供するため、また、早い時期から読書に関心をもってもらうため、学校教育機関等と連携し、児童資料を充実すると同時に、読み聞かせやおはなし会、団体貸出等の様々なサービスの充実を図ります。

● 障害者サービスの充実

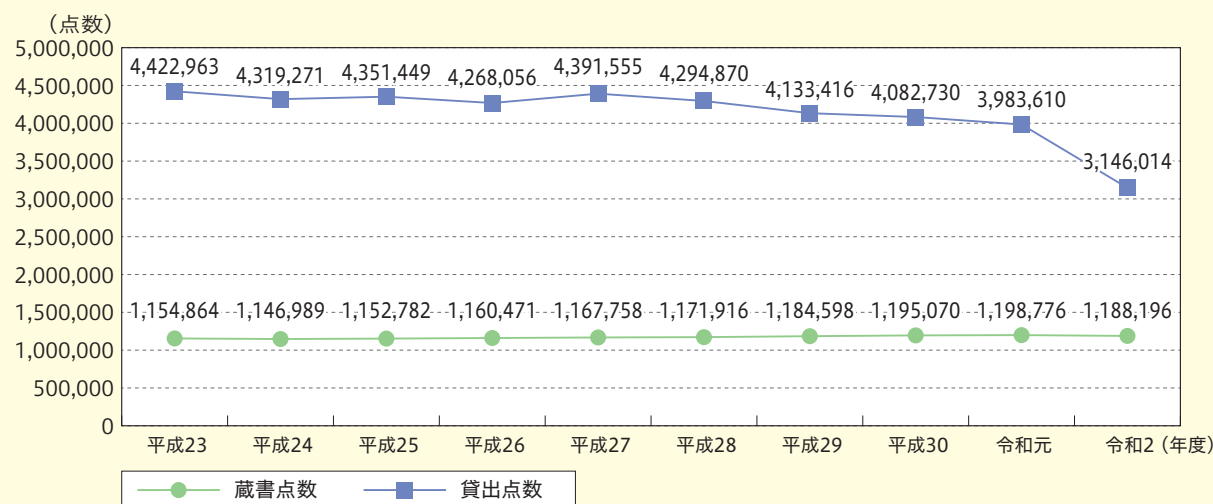
様々な理由により、図書館サービスを受けることが難しい利用者に対し、点字資料・音訳資料等の資料整備を行うとともに、必要とする情報が入手できるよう支援します。また、多様な読書環境を提供するため障害者サービスの充実を図ります。

関連計画

● 目黒区生涯学習実施推進計画

● 目黒区立図書館基本方針

目黒区立図書館8館の蔵書点数と貸出点数の推移



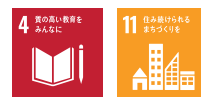
施策 6 文化財の保護・活用

施策の概要

目黒区に関連する文化財の収集、保存及び調査研究を進めるとともに、多様なスタイルでの情報発信や公開を図っていきます。

関連するSDGs*のゴールを踏まえ、目黒区は、文化財を後世に伝えていくために大切な財産として保存していくとともに、ICT*の活用も視野に入れながら、文化財に触れることのできる機会を積極的に提供することにより、文化財愛護の気持ちを育み、郷土への誇りや愛着が深まるような事業を推進していきます。

関連するSDGsのゴール



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

成果指標

成果指標名	現状値	計画目標値
		令和13年度末
めぐろ歴史資料館の年間入館者数	7,838人 (令和元年度)	8,300人
文化財を活用した事業への参加者数	124人 (令和元年度)	150人

現状と課題

- 近年の文化財のあり方として、ただ保存し続けるだけではなく、活用する取組が増加してきています。
- 区は、平成20(2008)年度にめぐろ歴史資料館を開館し、区に関する歴史的な資料や発掘調査の成果を保存するとともに公開・活用を図っています。ほかにも、「区内文化財めぐり」事業を開催し、文化財に対する理解と文化財保護の意識の高揚も図っています。
- また、目黒区内には、国・都・区の指定を受けて保護措置を図っている文化財以外にも、建造物・石造物など様々な種類の文化財が存在しています。
- これらの貴重な文化財の存在が区民にとって郷土への誇りや目黒区への愛着につながるものが求められています。
- 今後は、継続的な調査などを実施し文化財を保存していくとともに学校教育との連携を推進し、より多くの区民が直接文化財に触れ、親しみ、理解を深めてもらえるよう、情報発信を継続的に実施できる体制を構築することが必要です。



油面遺跡の縄文住居



目黒区古民家

主な取組

●文化財の保存の推進

区民共有の貴重な財産である文化財を後世に継承するため、保管場所であるめぐろ歴史資料館内収蔵庫及び埋蔵文化財整理室を再整理し、保存環境の改善を図るとともに、重要なものについては区指定文化財として指定していきます。

●関連資料及び情報の提供

区民が目黒区の歴史や文化財について正しく理解できるよう、これらに関する資料及び情報を整理し、電子媒体や紙媒体を利用して目黒の歴史や文化財に触れることができる機会を提供します。

●文化財の公開・普及の推進

文化財の調査及び研究を行うとともに、これらの成果についてめぐろ歴史資料館において展示・公開を行うほか、遺跡発掘調査時に現地見学会を行い、新たな目黒の歴史や文化財に触れることができる機会を提供します。

関連計画

●目黒区生涯学習実施推進計画

●めぐろ芸術文化振興プラン



めぐろ歴史資料館の展示解説



東山貝塚遺跡発掘体験